

保護者の皆様

札幌市立北郷小学校

校長 近江 慎也

「全国学力・学習状況調査」における 本校児童の結果と課題、改善方向について

晩秋の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に深いご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、文部科学省が4月17日(木)に6年生児童を対象に実施いたしました「全国学力・学習状況調査」につきまして、本校の結果と課題、改善の方向がまとまりましたので、お知らせいたします。

本 校 の 概 要

国 語

- 〔知識及び技能〕の「情報の扱い方に関する事項」、「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の内容で、正答率は、全国平均を下回っている。
- 〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の内容で、正答率は、全国平均とほぼ同程度である。

今回の調査における課題

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
- 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

改 善 の 方 向

- 複雑な事柄を分解して捉えたり、多様な内容を要素ごとに分類したりする際に、短い語句で端的に表し、図で表しながら考えをまとめる学習活動の充実。
- 書く目的や意図を明確にし、条件に合わせて詳しく書いたり簡単に書いたりするとともに、図表を用いるなど、必要な場合を判断しながら書き表し方を工夫するような意見文や提案書などの書く活動の充実を図る。
- 文や文章の中で、漢字を正しく使えるように習熟を図る。

算 数

- 「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」のすべての領域で、正答率が全国平均を下回っている。
- ・特に、「測定」の「コンパスを用いて平行四辺形を作図」したり、「角の大きさについての理解」したりする問題の正答率が低かった。
 - ・いずれの領域においても、記述式や短答式の問題における正答率が全国平均より大きく下回った。

- 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図すること。
- はかりの目盛りを読むこと。
例)はかりの針がさしている目もりは何gですか。答えを書きましょう。
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述すること。

- 辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形の構成の仕方について考察する活動の充実。
- 身の回りのものの大きさについて単位を用いて表現する活動の充実。その際、示されたはかりの最小目盛りの大きさに着目することを意識付けていく。
- 日常の事象について、ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見だし、それらの数量を把握して問題を解決する活動の充実。

↓ 裏に続きます。

理 科

本 校 の 概 要

- 「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」のすべての領域で、正答率が全国平均を下回っている。
- ・特に、「生命」の「ヘチマの花のつくり」や、「レタスの種子の発芽の条件」の正答率が低かった。
 - ・いずれの領域においても、記述式や短答式の問題における正答率が全国平均より大きく下回った。

今回の調査における課題

- 身の回りの電気を通す物と磁石に引き付けられる物との差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること。
- 水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、実験の方法が適切であったかを検討し、表現すること。
- レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること。

改 善 の 方 向

- 結論を見いだす過程において、結果そのものと、そこから言えること（考察）を区別して、より妥当な考えをつくりだすことができるような子どもの表現を整理する教師の関わりの充実。
- 問題を見いだす力を育むために、観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的に着目し、一人一人が見いだした問題をノートに書くなどの思考し表現する活動の充実。
- より妥当な考えをつくりだす力を育むために、観察、実験などの結果を基に、具体的な数値や事物・現象の変化などの根拠を明確にして自分の考えをつくりだし、表現する学習活動の充実。

児童質問紙～学習・生活の様子

■ 基本的生活習慣等について

「平日にどのくらいテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、スマホなどを使ったゲームを含む）をしているか」「平日にどのくらいスマホなどでSNSや動画視聴などをしているか」の問いについて、その時間が全国平均を大きく上回っていました。夜遅くまで起きていたり、寝るぎりぎりまでSNSや動画視聴をしていたりすることが、学年が上がるにしたがって増えてきているようです。

■ 自己有用感、自己肯定感等について

「自分にはよいところがある」の問いについては、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合が、全国平均を下回っていました。この点については、6月に行った本校の児童アンケートでも同様な傾向が見られています。

■ 学習習慣について

「学校の授業以外の学習時間」や「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができるか」の問いについては全国平均を大きく下回っていました。学習時間や主体的に学びに向かう取り組み方については、継続して取り組んでいく必要があると考えます。

昨年度と同様に令和7年度の全国学力・学習状況調査においても、ゲームや SNS、動画視聴の時間が全国平均よりも非常に多いことが結果として表れました。児童の健康を守るためにも使用時間について考えていく必要があります。あわせて、情報モラル教育についても、各家庭での協力が必要となります。学校では、道徳、学活、各教科で情報教育に関する学習があります。今後も、学校から情報提供を積極的に行い、ICT を上手に活用できるようになるとよいと思います。さらに、「自分にはよいところがある」の項目に関して、本校で全学年を対象としたアンケートと同様に、低い結果となっております。「一人一人が大切にされている」と実感できる学校づくりに向けて、『プラスのまほう』を合言葉に、今後も教育活動に取り組んでいきます。また、「さっぽろっ子『学びのススメ』」を活用しながら、子どもへの望ましい関わり方について、保護者の皆様と、更に共通理解を図れるとよいと思います。今後とも、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。